



— 巻 頭 言 —

## 今年度の事業とその役割

学会長 小 堺 加智夫

学会長就任後、夢のように1年が過ぎ去り、この度、金沢総会において平成14年度の事業・財務報告と平成15年度の事業・財務計画案について、承認をいただいたばかりである。

その中で従来からの幾つかの担当理事制を、常設委員会組織に立ち上げて学会活動の活性化を図る一方で、体験入会に当る学術大会に参加できる準会員制の導入からローテーション従事者と学生に門戸を広げ、より多くの会員間で切磋琢磨しながら本学会を充実させ、その上で正会員に入会できる良心的な体制が整えられた。また、ホームページの充実から本会の動向をより早くキャッチして、会員として積極的に事業に参画し、金沢大会ではEメールから過去最高の一般研究発表が実現した。その他、核医学技術セミナー・シンポジウム等での講演・講座の参加、専門技術者認定の申請、国際交流・研修派遣申請等々においても会員一人一人が役割を担うことが期待される。

そして今年度は、昨年度に引き続いて「2000年宣言」を骨子とする、核医学技術の向上・普及並びに啓発活動に関する事業の展開をスタートした。

特に核医学専門技術者の公的・社会的認容を最大の祈願とし、全理事で担当委員会に協力し、関連学会との連携を重視しながら進めているが、全力投球で委員長にお願いしている。しかしまだまだ認定者が公的・社会的に満たす程多く認定されていないので、今後一人でも多くの会員が申請され、そして認定されることが重要であり、更なる会員の関心と奮起が求められる訳である。また、この認容如何によっては、全国の核医学1,265施設（2002年度日本アイソープ協会の調査資料）に従事されている核医学技術者並びに研究者そして関連する企業の意識が喚起され、遥かにこの施設数を上回る会員の入会が期待される。そして本会が最も心配している会員の減少も一気に解消され、祈願とする千人以上の会員を常に確保出来る可能性が十分考えられる。即ち、この委員会において展開される内容および方向性は、会員は勿論、会員以外においても大変興味深く関心を抱いていると思われる、その期待を委員会が担っていることになる。勿論、全役委員で取り組んで行く姿勢に变りないが、いかに委員長が全役委員の知恵を引き出して関連学会と上手く連携できるかに懸かり、委員長の熱意とリーダーシップに期待される。

一方で核医学専門技術者の認定は、国際交流・研修派遣の申請並びに大会長、学会長等の立候補および学会賞に必要条件とされるので、より多くの会員が認定を受けて学会の権利を行使できるようにお願いする。また、外から評価されるバロメータに機関誌「核医学技術」がある。本会にとって重要な事業の一つであるが、殆ど今まで編集委員会の熱意と努力に甘えて来ているが限界もある。やはり会員一人一人に投稿論文の役割を担っていただくことがベストで、是非、学術総会における研究発表を論文化し、編集委員会が悲鳴を上げる程の投稿を期待する。また、電子情報管理委員会が常設委員会に格上げされたので、ホームページを更なるスピーディな情報の発信と円滑な情報交換にして、会員間の利便性を生かしながら新たな展開を見出し、社会への啓発活動と核医学診療における危機管理としての役目も十分考えられる。即ち、核医学診療の一般社会へのアピール、あるいは日常診療で起こるアクシデント・インシデントの事例を的確に管理して、可能な限りリスクを減少させる再発予防の体制を構築し、安全な核医学診療が行える役割を本会が担う必要があろう。

役委員一同英知を振り絞って会員が意欲・活力の沸く学会運営を目指し、会員は一人一人が権利を行使して未来ある核医学技術発展に努力することが重要である。